

# 妊娠糖尿病と診断された女性と そのお子さんを産後長期まで 総合的にケアするためにお薦め するガイドブック

荒田尚子 *Arata, Naoko*

国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 母性内科

全妊婦さんの約10%に対して妊娠中の軽い耐糖能異常である「妊娠糖尿病」の管理が必要な時代がやってきた。公益社団法人日本看護協会の福井トシ子会長、同協会の井本寛子常任理事編著による「助産師のための妊娠糖尿病ケア実践ガイド」が2019年10月に上梓された。本書は、一般財団法人日本助産評価機構が認定する「アドバンス助産師<sup>®</sup>」<sup>注</sup>の育成・継続教育内容にも含まれる妊婦の代謝異常に関する知識の習得とブラッシュアップを目的として企画された。本書の内容は、妊娠糖尿病のこれまでの歴史、最新の知識を含み、現場を知り尽くしたものにしか書けない実践的なガイドとなっている。アドバンス助産師<sup>®</sup>やその取得を目指す者のみならず、妊娠糖尿病妊産婦の妊娠中や産後の管理に関わる看護師、助産師、薬剤師、管理栄養士、保健師、医師などの医療・保健関係者にも是非お薦めしたい。

本書は3つのchapterとコラム

注：一般財団法人日本助産評価機構によって助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）CLoCMiP<sup>®</sup>レベルⅢ認証制度で認証された助産師をアドバンス助産師<sup>®</sup>と呼ぶ。

で構成されている。chapter 1は、「妊娠糖尿病ケアに必要な基礎知識」であり、妊娠による生理的・身体的変化、妊娠糖尿病の基礎知識としての妊娠糖尿病の歴史や現在の定義と診断基準、妊娠糖尿病のスクリーニングから診断、妊娠糖尿病の管理・治療、チーム医療・チームケアのための実学である臨床推論の実際、妊娠・出産と糖代謝異常に関わる診療報酬の概要が、詳細かつ確に書かれている。chapter 2は、「妊娠糖尿病妊産婦と新生児のケア」について、基礎編と実践編に分けて記載されている。基礎編で、妊産婦や育児を取り巻く社会的情報を知ること、妊産婦の生活環境と情緒的变化を理解したうえで生活行動改善に向けた支援を行うことの重要性、食生活支援における基本的な考えかたについて述べられ、実践編で妊娠各期、分娩期、産褥期、産後長期にわたる各期の妊娠糖尿病妊産婦の特徴、心理状態、治療とケア、助産師の役割、ケアにおける注意点がそれぞれまとめられている。さらに、妊産婦からよくある質問とその対応例も書かれており、妊娠糖尿病妊産婦と新生児ケアを系統的に学ぶことができる。

## 『助産師のための 妊娠糖尿病ケア実践ガイド』

福井トシ子, 井本寛子 編著  
医歯薬出版 発行  
定価（本体 3,200 円＋税）

chapter 3では、具体的な事例を基に、支援の方法やチーム内での連携・協働について読者自身が考察することが可能である。

妊娠中の糖代謝異常は母親にとっても子どもにとっても将来の健康支援が継続的に必要な病態である。妊娠糖尿病の基礎知識、社会生活環境や心理面も考慮した支援の方法、多職種との連携を含めた総合的かつ時間軸も考えた長期的な支援の必要性を理解することが妊娠糖尿病のケアには必要である。本書は、妊娠糖尿病の母子の未来の健康支援を実践していくための医療・保健関係者にとっての大切な指南書ともいえよう。本書を企画・編集されたおふたりの先生、および著作者の皆様にご敬意を表す。